

2018年度PMからのメッセージ

氏名・所属:五十嵐 悠紀(明治大学 総合数理学部 先端メディアサイエンス学科 専任講師)



略歴:

2010年 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了 博士(工学)
2010～2013年 日本学術振興会特別研究員PD (筑波大学)
2013～2015年 日本学術振興会特別研究員RPD (筑波大学)
2015年 明治大学 総合数理学部 専任講師

専門分野:

コンピュータグラフィックス
CAD (Computer Aided Design)
ユーザインタフェース
ファブリケーション

メッセージ:

未踏に応募しようとするこのページを見てくれた人は、希望ややる気、熱意に溢れていることでしょう。応募対象となる若い世代のみなさんは、小さい頃からITがそばにあり、PCやスマホに触れる人生を送ってきており、いわゆる「デジタルネイティブ」と言われている世代。そんなみなさんだからこそ気づく、「新しい技術」「新しいアプリケーション」がたくさん隠されていると思います。

大事なことは、「常識を疑うこと」。こうしたほうがいい、これを使って下さいね、などと言われたものをそのまま受け入れるのではなく、「どうしたらよりよくなるか」「〇〇があったらこんなことができるのに」と疑って考えてみる。そんなところから、新しい技術の発明、アプリケーションの開発が始まります。心に留まったこと、気になったことをぜひ、自分の力を信じて大きく育て、解決してみませんか？

未踏事業はそれを最大限に育てる最高のチャンスです。プロジェクトマネージャからは提案者自身が思ってもいなかった「道しるべ」を示され、様々な可能性を模索することができるでしょう。未踏採択者同士は良い意味で刺激しあえる戦友に、そしてOB/OGとのつながりは、今後の貴重な宝になることでしょう。

応募しなければ何も始まりません。ぜひ提案書を書いて、第一歩を踏み出してください。

審査基準:

1. 世の中の常識を変えることができるような提案
「これができた暁には世の中のサービスや仕組みが変わる」「この技術をこんなことに使うのか!」と思わせるような、常識にとらわれない提案を期待します。
2. まだ世の中にない技術、仕組みの提案
すでにある技術を発展させることも大事ですが、0から1を生み出すそんな技術、提案を期待します。誰もやったことがない分野に取り組む、ここにITを取り入れることで今までできていなかったこんなことができます、など、誰かの研究の発展ではない、提案を待っています。

3. 熱意のある提案

「こんなものがすでにあるよ」「そんなこと何が新しいの？」と言われても、何が違うか、どうしてこれが必要か、それを熱く語り、そして説得できる。そんな熱い思いを待っています。世の中に存在しないものを自分で生み出すには大変な努力や時間が必要です。提案する内容に熱意が必要なのは言うまでもありません。

4. 広く使われる技術の提案

特定の分野に関わる提案ではなく、広く使われる技術の提案を期待します。また、専門家だけではなく、一般ユーザが使いこなせるような技術の提案を期待します。技術が進歩してきて、だんだんニッチな分野の提案が増えてきたように思います。「開発期間を考えて、個人でできる範囲でということはこの分野に特化したものを作成します。けれど、技術としては〇〇分野や△△分野など、広く使うことができます」というような提案はウェルカムです。